

2023年度 カリキュラム・マップ【城西短期大学ビジネス総合学科】

ディプロマ・ポリシー

- DP1: 前に踏み出す力
- DP2: 考える力
- DP3: 協力の力
- DP4: 職業人として活躍できる幅広い教養
- DP5: ビジネススキル

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連するディプロマ・ポリシー				
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
基本科目	基礎ゼミナールA	<p>《目的》 各自が「自分を活かすキャリア形成」をしていくための手がかりを得ることを目的としています。とくに自分の個性をよりよく理解して自己肯定感を高め、自己実現に向けた新たな目標をみつめられるようになることをめざしています。そのために、社会人基礎力の3つの能力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）のなかで、とくに「前に踏み出す力」（主体性・働きかけ力・実行力）を高めることに重きを置いています。そして「チームで働く力」の能力要素である「発信力」と「傾聴力」を鍛えます。</p> <p>《到達目標》 自分の個性をよりよく理解して自己肯定感を高めながら、社会人基礎力のなかでとくに「前に踏み出す力」（主体性・働きかけ力・実行力）を身につけます。また話し合いやディスカッションをとおして「発信力」と「傾聴力」を身につけます。</p> <p>《短大D P①②③の教養と、深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力、②社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や適応的能力、③社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力、に該当》</p>	<p>《評価方法・割合》 レポートおよびプレゼン内容が50%、毎回の授業での発言やコメントなどの授業貢献度が50%。</p> <p>《評価基準》 自分のプレゼンテーションのための準備のプロセス（提出期限を守ったレポートの提出など）と授業内におけるプレゼンテーションの内容および学習意欲を評価します。 また、他の学生のプレゼン内容に対するコメントや、グループ・ワークの参加態度も評価します。</p>	◎	○	○		
基本科目	基礎ゼミナールB	<p>《目的》 各自が「自分を活かすキャリア形成」をしていくための新たな目標をみつめられるようになることを目的としています。そのために社会人基礎力の3つの能力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）のなかでとくに「考え抜く力」（課題発見力・計画力・創造力）を高めることに重きを置いています。そして「チームで働く力」の能力要素である「発信力」と「傾聴力」を鍛えます。</p> <p>《到達目標》 自らの関心に基づいて選択したテーマについて、資料を作成してゼミでプレゼンテーションすることによって、社会人基礎力の「前に踏み出す力」と「考え抜く力」の両方を高めます。併せて共に学ぶという学習体験によって「チームで働く力」の能力要素も高まります。</p> <p>《短大D P①②③の教養と、深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力、②社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や適応的能力、③社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力、に該当》</p>	<p>《評価方法・割合》 レポートおよびプレゼン内容が50%、毎回の授業での発言やコメントなどの授業貢献度が50%。</p> <p>《評価基準》 自分のプレゼンテーションのための準備のプロセス（提出期限を守ったレポートの提出など）と授業内におけるプレゼンテーションの内容および学習意欲を評価します。 また、他の学生のプレゼン内容に対するコメントや、グループ・ワークの参加態度も評価します。</p>	○	◎	○		
基本科目	ゼミナールA	<p>《目的》 社会人基礎力の12の能力要素を意識しながら、グループ・ワークという学習体験により、「自分を活かすキャリア形成」のための新たな目標や課題がみつめられるようになることをめざしています。初年度のゼミナール活動で培った「前に踏み出す力」と「考え抜く力」を発揮しながら、とくに「チームで働く力」（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール）を高めることに重きを置いています。グループでの話し合いやディスカッションを重ねることによって、多様性に配慮しながら社会貢献できる人間形成をめざします。</p> <p>《到達目標》 社会人基礎力の12の能力要素を意識しながら、グループ・ワークという学習体験により、「自分を活かすキャリア形成」のあり方をより具体的に考えられるようになります。自分にある社会人基礎力の12の能力要素を意識して、それらの能力をバランスよく高めることができるようになります。</p> <p>《短大D P①②③の教養と、深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力、②社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や適応的能力、③社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力、に該当》</p>	<p>《評価方法・割合》 レポートおよびプレゼン内容が50%、毎回の授業での発言やコメントなどの授業貢献度が50%。</p> <p>《評価基準》 自分のプレゼンテーションのための準備のプロセス（提出期限を守ったレポートの提出など）と授業内におけるプレゼンテーションの内容および学習意欲を評価します。 また、他の学生のプレゼン内容に対するコメントや、グループ・ワークの参加態度も評価します。</p>	○	○	◎	△	△
基本科目	ゼミナールB	<p>《目的》 各自が短大卒業後において「自分を活かすキャリア形成」をしていくための新たな目標や課題がみつめられるようになることをめざしています。自分が養ってきた社会人基礎力の3つの能力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を活かしながら、組織や地域社会で活躍できるようになることをめざしています。グループ・ワークによる共同によって、自分の個性や能力を活かすチームのなかで活躍する方法を身につけます。</p> <p>《到達目標》 社会人基礎力の12の能力要素を意識しながら、グループ・ワークによって組織や地域社会のなかで「自分を活かすキャリア形成」についてより具体的に考えられるようになります。またグループ・ワークでディスカッションすることにより、多様性に配慮しながら社会貢献できるようになります。</p> <p>《短大D P①②③の教養と、深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力、②社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や適応的能力、③社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力、に該当》</p>	<p>《評価方法・割合》 ・授業貢献度：30%（授業態度、質疑への積極性、ペアワークなどの積極性、課題など主体的な取り組み） みで評価） ・共通課題：10%（全学共通で実施する課題への取り組みで評価） ・試験：60%（定期試験、小テスト、レポートなどで評価） ・学期末に実施する統一試験の結果も評価の一部として用いる</p> <p>※ 学則に従って100点満点で60点以上が合格</p>	○	◎		△	△
基本科目	コミュニケーション基礎英語A	<p>《目的》 コミュニケーションに必要な基礎的な英語力としては、①Reading（読む）、②Writing（書く）、③Listening（聞く）、④Speaking（話す）の4つがあります。コミュニケーション基礎英語Aでは、これらのなかでとくに①Reading（読む）の能力を高めることに重きを置いて、その基礎的な知識と技術を習得することを目的とします。発表、ペアワーク、グループワークなどの演習によって、簡単な英語で表現された文章について、その主題や展開を理解して、概要が把握できるようになることをめざします。</p> <p>《到達目標》 英語を用いたコミュニケーションが必要とされる場において実際に活用できる基礎的な英語力、とくに英語のリスニング力を高めます。いくつかの場面を想定した英会話活動を体験することにより、その主題や展開を理解して、概要を把握して、他者にそれをわかりやすく説明できるようになることを到達目標とします。英語を用いた高いコミュニケーション能力を身につけることによって、将来、地域社会や国際社会において活躍できるようになることをめざしています。</p>	<p>《評価方法・割合》 ・授業貢献度：30%（授業態度、質疑への積極性、ペアワークなどの積極性、課題など主体的な取り組み） みで評価） ・共通課題：10%（全学共通で実施する課題への取り組みで評価） ・試験：60%（定期試験、小テスト、レポートなどで評価） ・学期末に実施する統一試験の結果も評価の一部として用いる</p> <p>※ 学則に従って100点満点で60点以上が合格</p>	○	◎			
基本科目	コミュニケーション基礎英語B	<p>《目的》 コミュニケーションに必要な基礎的な英語力としては、①Reading（読む）、②Writing（書く）、③Listening（聞く）、④Speaking（話す）の4つがあります。コミュニケーション基礎英語Bでは、これらのなかでとくに③Listening（聞く）の能力を高めることに重きを置いて、その基礎的な知識と技術を習得することを目的とします。発表、ペアワーク、グループワークなどの演習によって、簡単な英語で表現された文章について、その主題や展開を理解して、概要が把握できるようになることをめざします。</p> <p>《到達目標》 英語を用いたコミュニケーションが必要とされる場において実際に活用できる基礎的な英語力、とくに英語のリスニング力を高めます。いくつかの場面を想定した英会話活動を体験することにより、その主題や展開を理解して、概要を把握して、他者にそれをわかりやすく説明できるようになることを到達目標とします。英語を用いた高いコミュニケーション能力を身につけることによって、将来、地域社会や国際社会において活躍できるようになることをめざしています。</p>	<p>《評価方法・割合》 ・授業貢献度：30%（授業態度、質疑への積極性、ペアワークなどの積極性、課題など主体的な取り組み） みで評価） ・共通課題：10%（全学共通で実施する課題への取り組みで評価） ・試験：60%（定期試験、小テスト、レポートなどで評価） ・学期末に実施する統一試験の結果も評価の一部として用いる</p> <p>※ 学則に従って100点満点で60点以上が合格</p>	○	◎			

2023年度 カリキュラム・マップ【城西短期大学ビジネス総合学科】

ディプロマ・ポリシー DP1: 前に踏み出す力 DP2: 考える力 DP3: 協力を力 DP4: 職業人として活躍できる幅広い教養 DP5: ビジネススキル

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー				
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
基本科目	コミュニケーション基礎英語C	(目的) コミュニケーションに必要な基礎的な英語力としては、①Reading (読む)、②Writing (書く)、③Listening (聞く)、④Speaking (話す) の4つがあります。コミュニケーション基礎英語Cでは、これらのなかで特に②Writing (書く) の能力を高めることに重きを置いて、その基礎的な技能と知識を習得することを目的とします。自分の関心や意図をわかりやすく伝えるために必要な英語の筆記力を高めることをめざします。 (到達目標) 英語を用いたコミュニケーションが必要とされる場において実際に活用できる基礎的な英語力、とくに発話能力を高めます。自らの関心や意図をわかりやすく伝えるために必要な英語で書く能力を身につけることを到達目標とします。英語を用いた高いコミュニケーション能力を身に付けることによって、将来、地域社会や国際社会において活躍できるようになることをめざしています。	(評価方法・割合) ・授業貢献度：30% (授業態度、質疑への積極性、ペアワークなどの積極性、課題など主体的な取り組みで評価) ・共通課題：10% (全学共通で実施する課題への取り組みで評価) ・試験：60% (定期試験、小テスト、レポートなどで評価) ・学期末に実施する統一試験の結果も評価の一部として用いる ※ 学則に従って100点満点で60点以上が合格	○	◎			
基本科目	コミュニケーション基礎英語D	(目的) コミュニケーションに必要な基礎的な英語力としては、①Reading (読む)、②Writing (書く)、③Listening (聞く)、④Speaking (話す) の4つがあります。コミュニケーション基礎英語Dでは、これらのなかで特に④Speaking (話す) の能力を高めることに重きを置いて、その基礎的な技能と知識を習得することを目的とします。発表、ペアワーク、グループワークなどの演習によって、自らの意見や考えを英語で表現することができ、実会話により自分の意図を相手にわかりやすく伝えることができるようになることをめざします。 (到達目標) 英語を用いたコミュニケーションが必要とされる場において実際に活用できる基礎的な英語力、とくに発話能力を高めます。自らの意見や考えを英語で表現することができ、スピーキング能力により自分の意図を相手にわかりやすく伝えることができるようになることを到達目標とします。英語を用いた高いコミュニケーション能力を身に付けることによって、将来、地域社会や国際社会において活躍できるようになることをめざしています。	(評価方法・割合) ・授業貢献度：30% (授業態度、質疑への積極性、ペアワークなどの積極性、課題など主体的な取り組みで評価) ・共通課題：10% (全学共通で実施する課題への取り組みで評価) ・試験：60% (定期試験、小テスト、レポートなどで評価) ・学期末に実施する統一試験の結果も評価の一部として用いる ※ 学則に従って100点満点で60点以上が合格	○	◎			
専門科目 (必修)	経営学基礎Ⅰ	(目的) 「初年次教育」としての授業です。教科書に沿って経営学の基礎や専門用語などを把握した上で、将来「企業」あるいは「組織」の一員になった際に広く物事を捉え、問題発見・解決が図れるようになることを目的とし、入門段階であるのでまずは教科書に沿って経営学の基礎や専門用語などを把握します。 (到達目標) 4年制大学の学部編入や専門課程に進むことができる能力の修得をめざします。また、グループ・ディスカッションやケーススタディの学習により、専門的な知識や技能に加え、広い教養を備え、多様なビジネス活動においても地域社会や国際社会で活躍できる能力を身につけることを学習の到達目標とします。	(評価方法) 授業への参加意欲、課題提出、期末試験 (割合) 平常点 (授業への参加・貢献、授業時間内に取り組み課題の成果) : 30% (毎週授業後) 課題提出 : 20%、期末試験 : 50% (評価基準) 授業内および授業の課題におけるマーケティングの知識を修得したか。 また、期末試験で総合的に評価します		○	○	◎	
専門科目 (必修)	経営学基礎Ⅱ	(目的) 経営学の考え方を理解した上でその基礎的な知識を修得し、みなさんが経営学の観点からニュースなどを理解できるようになることを目的とします。 (到達目標) 経営学を中心の問いは、「みんなが幸せだと感じられる社会を実現するにはどうすればいいか」にあります。日々の経済ニュースの本質を理解できるように、基礎的な知識を修得することがこの授業の目標です。	(評価方法) 授業中に実施するワークシートとミニテストで評価します。 (割合) ワークシート:40% ミニテスト:60% (評価基準) 上記の合計が6割以上を合格とします。			○	◎	○
専門科目 (選択)	経済学基礎Ⅰ	(目的) 経済学の考え方を理解した上でその基礎的な知識を修得し、みなさんが経営学の観点からニュースなどを理解できるようになることを目的とします。 (到達目標) 経済学を中心の問いは、「みんなが幸せだと感じられる社会を実現するにはどうすればいいか」にあります。日々の経済ニュースの本質を理解できるように、基礎的な知識を修得することがこの授業の目標です。	(評価方法) 授業中に実施するワークシートとミニテストで評価します。 (割合) ワークシート:40% ミニテスト:60% (評価基準) 上記の合計が6割以上を合格とします。			○	◎	○
専門科目 (選択)	経済学基礎Ⅱ	(目的) 日本経済の現状と課題を把握できるようになることを目的とします。 (到達目標) 『これからの日本の論点 日経大予測2022』のChapter1「日本経済はこれからどうなる」とChapter.2「日本企業はこれからどうなる」を検証します。コロナ危機のなかで明らかになった日本経済の課題とはどのようなものなのでしょうか？はたして日本経済新聞社の予測は当たるのでしょうか？日々の日本経済の動向に関心を持ってもらい、その背景まで洞察できる力を養うことが、この授業の目標のひとつです。	(評価方法) 授業中に実施するワークシートとミニテストで評価します。 (割合) ワークシート:40% ミニテスト:60% (評価基準) 上記の合計が6割以上を合格とします。			○	◎	○

2023年度 カリキュラム・マップ【城西短期大学ビジネス総合学科】

ディプロマ・ポリシー				
DP1: 前に踏み出す力				
DP2: 考える力				
DP3: 協力を力				
DP4: 職業人として活躍できる幅広い教養				
DP5: ビジネススキル				

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー				
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
専門科目 (選択)	会計学基礎	<p>〈目的〉 基礎的な会計理論および全経簿記検定試験3級の例題を学びます。お金をめぐるビジネス知識や用語も学習します。</p> <p>〈到達目標〉 会計の考え方および基礎的な会計理論を理解し、所定範囲の検定試験3級の例題の解法を理解することを目標とします。</p>	<p>〈評価方法〉 筆記試験および課題提出</p> <p>〈割合〉 試験成績:70%、授業への積極的取り組み・課題提出:30%</p> <p>〈評価基準〉 全課題の提出および授業への積極的取り組みを最低基準とし、試験の設問への理解度で評価します。</p>		○		○	◎
専門科目 (選択)	簿記原理	<p>〈目的〉 全経簿記検定試験3級の仕訳や帳簿の基本問題の解き方を学びます。お金をめぐるビジネス知識や用語も学習します。</p> <p>〈到達目標〉 会計の考え方および基礎的な会計理論を理解し、所定範囲の検定試験3級の主要な問題の解法を理解することを目標とします。</p>	<p>〈評価方法〉 筆記試験および課題提出</p> <p>〈割合〉 試験成績:70% 授業への積極的取り組み・課題提出:30%</p> <p>〈評価基準〉 全課題の提出および授業への積極的取り組みを最低基準とし、試験の設問への理解度で評価します。</p>		○		○	◎
専門科目 (選択)	経営財務論	<p>〈目的〉 全経簿記検定試験3級の決算に関わる仕訳や帳簿の主要な練習問題の解き方を学びます。お金をめぐるビジネス知識や用語も学習します。</p> <p>〈到達目標〉 検定試験3級で難解な決算に関わる練習問題の解法を理解することを目標とします。</p>	<p>〈評価方法〉 筆記試験および課題提出</p> <p>〈割合〉 試験成績:70% 授業への積極的取り組み・課題提出:30%</p> <p>〈評価基準〉 全課題の提出および授業への積極的取り組みを最低基準とし、試験の設問への理解度で評価します。</p>		○		○	◎
専門科目 (選択)	経営分析論	<p>〈目的〉 就職活動に役立つ決算書を読む力を身に着けます。経営分析指標および分析公式やビジネス用語・知識を学びます。ビジネス会計検定の基礎論点を学びます。</p> <p>〈到達目標〉 決算書を中心に経営分析指標およびビジネス用語の理解、例題から指標を算出できる水準を目標とします。</p>	<p>〈評価方法〉 筆記試験および課題提出</p> <p>〈割合〉 試験成績:70% 授業への積極的取り組み・課題提出:30%</p> <p>〈評価基準〉 全課題の提出および授業への積極的取り組みを最低基準とし、試験の設問への理解度で評価します。</p>		○		○	◎
専門科目 (選択)	初級プログラミング演習	<p>〈目的〉 実際に簡単なプログラムを作成することによって、コンピュータ上でソフトウェアが動く仕組みを理解できるようになることが目標です。</p> <p>〈到達目標〉 基礎的なWindowsプログラミングに関するスキルを身につける。</p>	<p>〈評価方法・割合〉 期末試験:70% 提出課題:30%</p> <p>〈評価基準〉 課題については、すべての課題が提出されていることを最低基準とします。 期末試験については、設問の理解度に応じて評価します。</p>		◎			○
専門科目 (選択)	中級プログラミング演習	<p>〈目的〉 創作課題を通して、プログラムに自分なりの工夫を考えることで、より高度なプログラミングスキルを身につけることを目標としています。</p> <p>〈到達目標〉 やや高度なWindowsプログラミングに関するスキルを身につける。</p>	<p>〈評価方法・割合〉 実習課題:40% 創作課題:40% レポート試験:20%</p> <p>〈評価基準〉 課題については、すべての課題が提出されていることを最低基準とします。 レポート試験については、設問の理解度に応じて評価します。</p>		◎			○

◎:最もよく身に付けることができる能力
○:よく身に付けることができる能力
△:身に付けることができる能力

2023年度 カリキュラム・マップ【城西短期大学ビジネス総合学科】

ディプロマ・ポリシー DP1: 前に踏み出す力 DP2: 考える力 DP3: 協力する力 DP4: 職業人として活躍できる幅広い教養 DP5: ビジネススキル
--

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー					
				◎:最もよく身に付けることができる能力 ○:よく身に付けることができる能力 △:身に付けることができる能力	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
専門科目 (選択)	経営プログラミング演習	〈目的〉 Excelプログラミングに関する、より高度なスキルを身につけることを目標としています。 〈到達目標〉 Excelにおけるマクロ機能を理解し、自分で簡単なExcelプログラミングができるようになる。	〈評価方法・割合〉 課題提出:20% 中間試験:30% 期末試験:50% 〈評価基準〉 課題については、すべての課題が提出されていることを最低基準とします。 中間試験と期末試験については、設問の理解度に応じて評価します。		○				◎
専門科目 (選択)	コンピュータ会計	〈目的〉 コンピュータ会計ソフト操作の基礎的スキルを学びます。ビジネス会計に関する基礎知識を学びます。簿記検定試験の知識を復習します。 〈到達目標〉 コンピュータ会計ソフトの特性およびビジネス会計の知識の理解、決算書データ作成ができる水準を目標とします。	〈評価方法〉 筆記試験および課題提出 〈割合〉 試験成績:70% 授業への積極的取り組み・課題提出:30% 〈評価基準〉 全課題の提出および授業への積極的取り組みを最低基準とし、試験の設問への理解度で評価します。		○		○		◎
専門科目 (選択)	ビジネス・コンピューティング演習	〈目的〉 企業に就職してすぐに役立つビジネスコンピューティングスキルを身につけることを目標としています。 〈到達目標〉 仕事で使えるExcel関数のスキルを身につける。	〈評価方法・割合〉 課題提出:20% 中間試験:30% 期末試験:50% 〈評価基準〉 課題については、すべての課題が提出されていることを最低基準とします。 中間試験と期末試験については、設問の理解度に応じて評価します。		○				◎
専門科目 (選択)	情報処理基礎	〈目的〉 現代社会における情報の果たす役割やその重要性について十分理解し、積極的に情報社会で活躍できることを目標としています。 〈到達目標〉 短大のディプロマポリシーの広い教養と深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力を身につける。	〈評価方法・割合〉 期末試験:90%、課題提出:10% 〈評価基準〉 課題については、テーマの内容の理解度に応じて評価します。 期末試験については、設問の理解度に応じて評価します。		○		○		◎
専門科目 (選択)	心理学基礎	〈目的〉 心理学を学習すると同時にグループ・ディスカッションを通して、自己理解、他者理解を深めることを目的とする。 〈到達目標〉 「社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や道徳的能力」「社会の多様性に配慮して主体的かつ協働的に実社会に貢献できる能力」を養うための一部として、複数の学部生が構成員として存在するグループ・ディスカッションを毎回行うことで、心理学を理解すると同時に、社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や道徳的能力を身に付けることを目標とする。	〈評価方法〉 学期期間中を通じた継続的な学習の積み重ねを評価する方法（形成的評価）を採用する。 〈割合〉 毎回のコメントペーパー:60% 提出課題:15% 期末試験:15% 受講態度・参加度:10% 〈評価基準〉 社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や道徳的能力を身に付けることが出来たか。加えて、社会の多様性に配慮して主体的かつ協働的に実社会に貢献できる能力が身についたか。		○	○		◎	
専門科目 (選択)	デザインの基礎	〈目的〉 坂戸市西坂戸商店街にあるカフェと提携して学ぶ。 坂戸市西坂戸の地域としての特色を調査し、理解し、地域に受け入れられる新しい商品ポスターのデザインを考える。 新しい商品ポスターのデザインを通して、地域ビジネスに貢献する。坂戸市西坂戸地域の活性化を目指す。 カフェビジネスについて調べ、知見を深める。 新しいコンセプトの新しい商品ポスターデザインを考える。 新しい商品のデザインにも挑戦する。 グループワークで、協力して課題に取り組む。 フィールドワークを実施する。 〈到達目標〉 社会の多様性に配慮して主体的かつ協働的に実社会で貢献できる能力	〈評価方法・割合〉 課題：50% 試験：50% 〈評価基準〉 それぞれ70%以上	○	◎	○			

2023年度 カリキュラム・マップ【城西短期大学ビジネス総合学科】

ディプロマ・ポリシー DP1: 前に踏み出す力 DP2: 考える力 DP3: 協力を力 DP4: 職業人として活躍できる幅広い教養 DP5: ビジネススキル

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー				
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
専門科目 (選択)	映像制作の基礎	<p>〈目的〉 映像制作工程の基礎理解とビデオカメラや映像編集ソフトの基本操作、映像制作を通じた自己表現能力、ビジネスに必要なプレゼンテーション能力やプロモーション能力の修得を目的とします。</p> <p>〈到達目標〉 映像制作の講義と演習を通して、「広い教養と、深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力」と「社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力」を身につけます。</p>	<p>〈評価方法〉 受講態度と提出映像作品</p> <p>〈割合〉 受講態度:55% 提出映像作品:45%</p> <p>〈評価基準〉 知識とスキルが確実に修得できているか、その知識とスキルが提出映像作品に反映されているかによって評価します。</p>		○		○	◎
専門科目 (選択)	簿記演習Ⅰ	<p>〈目的〉 全経簿記検定試験3級の仕訳や帳簿の主要な練習問題の解き方を学びます。お金をめぐるビジネス知識や用語も学習します。</p> <p>〈到達目標〉 検定試験3級で難解な練習問題の解法を理解することを目標とします。</p>	<p>〈評価方法〉 筆記試験および課題提出</p> <p>〈成績評価方法〉 割合 試験成績:70% 授業への積極的取り組み・課題提出:30%</p> <p>〈評価基準〉 全課題の提出および授業への積極的取り組みを最低基準とし、試験の設問への理解度で評価します。</p>		○		○	◎
専門科目 (選択)	簿記演習Ⅱ	<p>〈目的〉 全経簿記検定試験3級の決算に関わる仕訳や帳簿の主要な練習問題の解き方を学びます。お金をめぐるビジネス知識や用語も学習します。</p> <p>〈到達目標〉 検定試験3級で難解な決算に関わる練習問題の解法を理解することを目標とします。</p>	<p>〈評価方法〉 筆記試験および課題提出</p> <p>〈割合〉 試験成績:70% 授業への積極的取り組み・課題提出:30%</p> <p>〈評価基準〉 全課題の提出および授業への積極的取り組みを最低基準とし、試験の設問への理解度で評価します。</p>		○		○	◎
専門科目 (選択)	映像制作演習	<p>〈目的〉 講義と演習により、映像制作工程の基礎理解とビデオカメラや映像編集ソフトの基本操作、映像制作を通じた自己表現能力、ビジネスに必要なプレゼンテーション能力やプロモーション能力の修得を目的とします。</p> <p>〈到達目標〉 映像制作の講義と演習を通して、「広い教養と、深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力」と「社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力」を身につけます。</p>	<p>〈評価方法〉 受講態度と提出映像作品</p> <p>〈割合〉 受講態度:55% 提出映像作品:45%</p> <p>〈評価基準〉 知識とスキルが確実に修得できているか、その知識とスキルが提出映像作品に反映されているかによって評価します。</p>		○		○	◎
専門科目 (選択)	プレゼンテーション演習	<p>〈目的〉 プレゼンテーションするまでの手順と方法を習得することによって、「社会人基礎力」の12の能力要素(主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力)をバランスよく高めることをめざします。ポートフォリオを作成することによって、生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義について理解できるようにします。</p> <p>〈到達目標〉 プレゼンテーションするまでの手順や方法を習得していくプロセスを確認するために、ポートフォリオを作成します。自分の気づきや発見の記録をポートフォリオによって、生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義について理解できるようにします。またグループワークで、ポートフォリオを用いてディスカッションすることにより、多様性に配慮しながら社会貢献できる人間形成をめざします。</p>	<p>〈評価方法〉 小レポートやプレゼン内容を含む授業への参加態度などを平常点として評価し、それに期末レポートの採点を合算して総合的に評価します。</p> <p>〈割合〉 平常点が70% 期末レポートが30%。</p> <p>〈評価基準〉 体験学習による学習成果の報告内容だけでなく、レポート作成までのプロセスや、レポートにもとづくプレゼンテーション後の討議における発言なども平常点として評価します。</p>	○	△	△	○	◎
専門科目 (選択)	ホテルビジネス入門	<p>〈目的〉 ホテル業務、とくにホテルの宿泊部門に従事するスタッフに求められるスキルや能力を深く理解し、良質なサービスとは何であるかについて提案することを目的とします。ホテル業務はもちろんだが、接客を中心とするサービス業で求められるマナーや言葉づかいを身につけて、コミュニケーション能力を高めることをめざします。</p> <p>〈達成目標〉 ホテル業界における基礎知識を身につけます。フロント、ベルサービス、宿泊予約などの業務における必要なスキルや能力を理解することによって、サービス業に活用できる能力を身につけて、将来、地域社会や国際社会において活躍できるようにすることをめざしています。</p>	<p>〈評価方法・割合〉 授業内に3回に分けて行う。 演習試験(指定された演習試験にて、立ち居振る舞い、言い回しが正確にできる):60% 筆記試験(指定された範囲内の理解度チェック):40% ◎欠席数が授業数の1/3になると、試験は受けられませんが。</p>					◎

2023年度 カリキュラム・マップ【城西短期大学ビジネス総合学科】

ディプロマ・ポリシー				
DP1: 前に踏み出す力				
DP2: 考える力				
DP3: 協力を力				
DP4: 職業人として活躍できる幅広い教養				
DP5: ビジネススキル				

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連するディプロマ・ポリシー				
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
専門科目 (選択)	ホスピタリティーサービス	<p>〈目的〉 ホスピタリティーやサービスについての基本的知識を身につけ、さらにそれを仕事で応用できるようになることをめざします。仕事をしていくうえで必要となるホスピタリティーや、接客サービスの基本的知識や思いやりなどを身につけることを目的とします。社会人として活躍するさいに求められるビジネスマナーや、コミュニケーションスキルを高め、接客における「責任やおもてなし」だけでなく、チーム間での信頼関係を高め、新しい関係を築いていく力を身につけることを目標とします。</p> <p>〈達成目標〉 社会人として身につけておくべきホスピタリティーや、接客サービスの基本的スキルを修得します。ビジネスマナーや、コミュニケーションスキルを高め、サービス業をはじめとした様々なビジネスシーンで円滑に対応できるようになることを到達目標とします。ホスピタリティーサービスの基礎知識を応用して、将来、地域社会や国際社会において活躍できるようになることをめざしています。</p>	<p>〈評価方法・割合〉 授業内に3回に分けて筆記試験を行う。 筆記試験(指定された内容の理解度チェック):100% ◎欠席数が授業数の1/3になると、試験は受けられません。</p>				◎	○
専門科目 (選択)	地域連携Ⅱ	<p>〈目的〉 毛呂山町にあるベーカーリーと提携して学ぶ。 毛呂山町の地域としての特色を調査し、理解し、地域に受け入れられる新しいパンのデザインを考える。 新しいパンのデザインを通して、地域ビジネスに貢献する。 毛呂山町地域の活性化を目指す。 ベーカーリービジネスについて調べ、知見を深める。 新しいコンセプトの新しいパンのデザインを考え、ポスターも制作する。 グループワークで、協力して課題に取り組む。 フィールドワークを実施する。</p> <p>〈到達目標〉 社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力。</p>	<p>〈評価方法・割合〉 課題:50% 試験:50%</p> <p>〈評価基準〉 それぞれ70%以上</p>	○	○	◎		
専門科目 (選択)	接客英語Ⅰ (CR英語)	<p>〈目的〉 訪日外国人観光客が急増する昨今、接客業においても外国人観光客への対応が迫られています。この授業では、実際の接客場面でどのような英語表現を使用したら良いのか、具体的なシーンを想定しながら重要な英語表現を学んでいきます。</p>	<p>〈評価方法・割合〉 課題:50% 試験:50%</p>	◎		○		○
専門科目 (選択)	接客英語Ⅱ (CR英語)	<p>〈到達目標〉 広い教養と、深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力</p>	<p>〈評価基準〉 それぞれ70%以上</p>	◎		○		○
専門科目 (選択)	ビジネス・コミュニケーションⅠ	<p>〈目的〉 様々なビジネスシーンにおいて求められる基礎的なコミュニケーションスキルを身につけることを目的としています。インターンシップや就職活動の準備として、職場で起こりうる様々な場面を想定した役割体験をすることによって、ビジネスマナーや、問題解決のための具体的な方法を学びながら、社会人基礎力のひとつである「チームワーク力」(6つの能力要素:発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力)の重要性を認識して、自己有用感を高めていくことをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 ビジネス上の様々な場面での基礎的なコミュニケーションスキルを身につけます。ビジネスマナーや、目標と向き合う問題を解決するための柔軟な対応ができるようになることを到達目標としています。職場で起こりうるビジネスシーンを想定した役割体験をすることによって、社会人基礎力のひとつである「チームワーク力」の重要性を認識して、自己有用感を高めていくことをめざします。</p>	<p>〈評価方法・割合〉 試験:50% 小テスト:20% 授業態度:30%</p>			○	○	◎
専門科目 (選択)	ビジネス・コミュニケーションⅡ	<p>〈目的〉 サービス業や接客業が必要とされる心構えや顧客対応の技術、言葉遣い、立ち振る舞いなどを学んで、サービス接客実務検定試験2級(筆記のみ)および準1級(面接のみ)に合格することを目標としています。サービススタッフの業務に対する姿勢や専門知識、対人技能と実践技能を学ぶので、様々な職場で応用可能な接客スキルが身につきます。</p> <p>〈到達目標〉 サービスに対する心構えや顧客対応の技術、言葉遣い、立ち振る舞いなどを身につけて、様々な場面で対応可能な接客スキルを修得することを到達目標とします。サービス接客実務検定試験2級(筆記のみ)および準1級(面接のみ)に合格することは、接客スキルが十分に身につけている証明になるため、社会での活躍の場が大きく広がります。</p>	<p>〈評価方法・割合〉 試験:50% 小テスト:20% 授業態度:30%</p>				○	◎

2023年度 カリキュラム・マップ【城西短期大学ビジネス総合学科】

ディプロマ・ポリシー
 DP1: 前に踏み出す力
 DP2: 考える力
 DP3: 協力を力
 DP4: 職業人として活躍できる幅広い教養
 DP5: ビジネススキル

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー				
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
専門科目 (選択)	コンピュータ演習Ⅰ	<p>〈目的〉 ワープロソフト「Word」の基本操作を習得し、併せてビジネス文書に関する知識・ノウハウを向上させ、MOS (Microsoft Office Specialist) Word一般レベル合格程度を目標としています。さらに、プレゼンテーションソフト「PowerPoint」を活用して発表資料の作成や発表技術等プレゼンテーション能力を向上させ、MOS (Microsoft Office Specialist) PowerPoint一般レベル合格程度を目標に学習を行います。</p> <p>〈到達目標〉 基礎的な情報処理能力を持ち、プレゼンテーション資料の作成とプレゼンテーション能力を身に付け、ビジネス文書に関する知識・ノウハウを修得することを目標としています。</p>	<p>〈評価方法・割合〉 授業における受講態度、参加度、提出課題の内容等を点数化して評価全体の60%を形成的評価点とします。また、実技試験を実施し、評価全体の40%を総括的評価点とします。形成的評価点と総括的評価点を合算して評価基準に照らし合わせ評価します。</p>	△	△	○	△	◎
専門科目 (選択)	コンピュータ演習Ⅱ	<p>〈目的〉 表計算ソフト「Excel(office365)」の基本操作を習得し、データの集積や分析、加工に関する知識・ノウハウを向上させ、MOS (Microsoft Office Specialist) Excel一般レベル合格程度を目標としています。</p> <p>〈到達目標〉 基礎的な情報処理能力を持ち、基礎資料の作成と分析能力を身に付け、ビジネスに関する知識・ノウハウを修得することを目標としています。</p>	<p>〈評価方法・割合〉 授業への参加姿勢:50% 提出課題・レポート:50%</p> <p>〈評価基準〉 表現言語の適正度</p>	△	△		△	◎
専門科目 (選択)	キャリア・デザイン	<p>〈目的〉 現代の仕事をめぐる状況についての知識を持つ</p> <p>〈到達目標〉 社会人として適切にふるまうことができる思考力・判断力・表現力や道徳的能力。</p>	<p>〈評価方法・割合〉 授業への参加姿勢:50% 提出課題・レポート:50%</p> <p>〈評価基準〉 表現言語の適正度</p>					◎ ○
専門科目 (選択)	ビジネス特別講義	<p>〈目的〉 キャリア関連。就職活動のスタートがスムーズにされるようにする。</p> <p>〈到達目標〉 社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や道徳的能力。</p>	<p>〈評価方法・割合〉 授業態度:50% 授業参加姿勢:30% 課題作成:20%</p> <p>〈評価基準〉 積極的な態度</p>					◎ ○
専門科目 (選択)	マーケティング基礎Ⅰ	<p>〈目的〉 授業を通して、マーケティングの基本知識、応用方法を修得する。また、直近の新聞記事の考察を通し、リアルタイムで進行しているマーケティング手法を学ぶ。</p> <p>〈到達目標〉 マーケティングの知識を、将来どのような業界についても応用ができるようになる。 ・広い教養と、深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力 ・社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力</p>	<p>〈評価方法〉 授業への参加意欲、課題提出、期末試験</p> <p>〈割合〉 平常点（授業への参加・貢献、授業時間内に取り組み課題の成果）：30% （毎週授業後）課題提出：20%、期末試験：50%</p> <p>〈評価基準〉 授業内および授業の課題におけるマーケティングの知識を修得したか。 また、期末試験で総括的に評価します</p>		○		◎	○
専門科目 (選択)	マーケティング基礎Ⅱ	<p>〈目的〉 授業を通して、マーケティングの基本知識、応用方法を修得する。また、直近の新聞記事の考察を通し、リアルタイムで進行しているマーケティング手法を学ぶ。</p> <p>〈到達目標〉 マーケティングの知識を、将来どのような業界についても応用ができるようになる。 ・広い教養と、深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力 ・社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力</p>	<p>〈評価方法〉 授業への参加意欲、課題提出、期末試験</p> <p>〈割合〉 平常点（授業への参加・貢献、授業時間内に取り組み課題の成果）：30% （毎週授業後）課題提出：20%、期末試験：50%</p> <p>〈評価基準〉 授業内および授業の課題におけるマーケティングの知識を修得したか。 また、期末試験で総括的に評価します</p>		○		◎	○
専門科目 (選択)	デザイン演習	-	-	-	-	-	-	-
専門科目 (選択)	公認会計士入門Ⅰ	-	-	-	-	-	-	-

2023年度 カリキュラム・マップ【城西短期大学ビジネス総合学科】

ディプロマ・ポリシー
 DP1: 前に踏み出す力
 DP2: 考える力
 DP3: 協力する力
 DP4: 職業人として活躍できる幅広い教養
 DP5: ビジネススキル

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー				
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
専門科目 (選択)	公認会計士入門Ⅱ	-	-	-	-	-	-	-
専門科目 (選択)	地域連携Ⅰ	-	-	-	-	-	-	-
専門科目 (選択)	地域連携Ⅲ(まちづくり)	-	-	-	-	-	-	-
専門科目 (選択)	地域連携Ⅳ(まちづくり)	-	-	-	-	-	-	-
専門科目 (選択)	産業心理学	-	-	-	-	-	-	-
関連科目	社会学Ⅰ	〈目的〉 社会学の考え方を中心に授業を進めていきたい。社会と個人・自分とのかかわりに気づき、社会貢献の意識を持つようにしたい。	〈評価方法・割合〉 授業態度:40% 試験またはレポート:60%	○	◎			
関連科目	社会学Ⅱ	〈到達目標〉 社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力が身に付く。	〈評価基準〉 授業内容の理解度	○	◎			
関連科目	数学入門Ⅱ	〈目的〉 この授業では問題の解法を自分で考え、計算することで数学に関する基礎知識を得るだけでなく、数学が好きになることを目標としています。	〈評価方法・割合〉 中間試験：50% 期末試験：50%		○		◎	
関連科目	英会話Ⅰ	〈目的〉 ・職場で日常英会話の表現するのに便利な基本的な言葉の使い方を勉強することを目的とする。 ・コミュニケーションや文の構造について基本的な語彙を勉強することを目的とする。	〈評価方法〉 学則に従い、欠席回数が3回に達した履修者(大学の指示により、オンライン授業となった場合；未提出課題1/3以上の履修者)は、評価の対象になりません。 100点満点で60点以上が合格	○				◎
関連科目	英会話Ⅱ	〈到達目標〉 日常英会話の基本的な知識を身につけて、読み、書き、聞き、話すことが出来るようになる。	〈割合〉 授業貢献度(授業態度、質疑への積極性)：20% ペアワーク発表(2回X30%)：60% 試験・期末テスト：20%	○				◎
関連科目	世界の中の日本	〈目的〉 初年次教育科目として「日本に関する基礎知識を確認し、個別の情報を関連付けてテーマ化する経験を得ること」を目的とします。	〈評価方法・割合〉 出席+復習クイズ=60点 期末テスト=40点 S=90点以上、A=80~89点、B=70~79点、C=60~69点、F=59点以下(T評価を除き追再試は実施しない)		○			◎
		〈到達目標〉 「職業人として活躍できる幅広い教養」として自分の言葉で日本に関して説明できるトピックを見つけることを目標とします。	〈評価基準〉 欠席6回以上に加え期末試験を受けていない場合はZ評価とします					

2023年度 カリキュラム・マップ【城西短期大学ビジネス総合学科】

ディプロマ・ポリシー

- DP1: 前に踏み出す力
- DP2: 考える力
- DP3: 協力を力
- DP4: 職業人として活躍できる幅広い教養
- DP5: ビジネススキル

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー				
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
関連科目	日本文化研修Ⅰ	<p>〈目的〉 生涯学習施設のひとつといえる城西大学水田美術館が所蔵する文化財をきっかけにして、日本文化や美術史への関心を高め、その教養を身につけながら自らの美意識を高めることを目的としています。自己実現につながるような美意識をもてるようになることは、人間形成について深く考えることにもつながります。ひいては、建学の精神「学問による人間形成」について自分なりの考えを述べられるようになります。</p> <p>〈到達目標〉 教育学、美学・美術史の視座を手がかりにして自らの美意識を高めつつ、建学の精神「学問による人間形成」について、ひいては「人間としての生き方」について考えていきます。そしてグローバルなものの見方を身につけて、社会で誇りをもって活躍できるようになることをめざします。</p>	<p>〈評価方法〉 小レポートやプレゼン内容、そして体験型学習への参加態度による形成的評価とします。</p> <p>〈評価基準〉 体験学習による学習成果の報告内容だけでなく、レポート作成までのプロセスや、レポートにもとづくプレゼンテーション後の討論における発言なども平常点として評価します。</p>	△	△	○	◎	
関連科目	日本文化研修Ⅱ	<p>〈目的〉 地域に根付いた日本の伝統文化、地域の文化や歴史、地場産業やそれに携わる自治体組織の役割を理解することによって、地域貢献についての理解を深めます。小川町にぎわい創出課との地域連携による学外授業を実施することによって、日本の伝統文化やその歴史、地場産業について学びます。学外授業後のレポート作成と発表のプロセスの中で、地域で実際に学んだ体験を整理しつつ記録とすること、それを他者に伝えるために論理的でわかりやすい文章を書くこと、さらにそれを口頭で報告するための具体的手法を身につけることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 城西大学・城西短期大学を取り巻く地域の文化や歴史を学ぶことによって、地域貢献や社会貢献についての理解を深め、これからの時代に求められるグローバルなものの見方を身につけて、社会で誇りをもって活躍できるようになることをめざします。</p>	<p>〈評価方法・割合〉 学外研修への参加が単位認定の必須条件となります。報告内容や討論における発言などを含む授業貢献度が60% 期末レポートが40%</p> <p>〈評価基準〉 学外研修について考察した報告内容だけでなく、レポート作成までのプロセスや、レポートにもとづくプレゼン後の討論会における発言なども平常点として評価します。</p>	△	△	○	◎	
関連科目	海外研修Ⅰ			◎		○	○	
関連科目	海外研修Ⅱ	<p>〈目的〉 海外研修に参加し異文化を体験することで、広い視野を身につけたり、自身の適性や新しい可能性を発見することが目的です。</p>	<p>〈評価方法〉 それぞれの研修先機関で受けた講義または演習等の評価に基づいて成績評価を行います。</p>	◎		○	○	
関連科目	海外研修Ⅲ	<p>〈到達目標〉 異文化を体験し理解すること。広い教養と深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力を身につけます。</p>	<p>〈割合〉 100%</p> <p>〈評価基準〉 事前説明会および体験発表会等（実施する研修プログラムの場合）への出席を前提としています。</p>	◎		○	○	
関連科目	海外研修Ⅳ			◎		○	○	
関連科目	English Communication I A	<p>〈目的〉 訪日外国人観光客が急増しました外国人労働者が増加することが見込まれている昨今、様々な社会生活の場面で英語によるコミュニケーションが求められています。この授業では、コミュニケーションの場面においてどのような英語表現を使用したら良いのか、具体的なシーンを想定しながら重要な英語表現を学んでいきます。</p>	<p>〈評価方法・割合〉 課題:50% 試験:50%</p>	◎		○		○
関連科目	English Communication I B	<p>〈到達目標〉 広い教養と、深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力 社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力</p>	<p>〈評価基準〉 それぞれ70%以上</p>	◎		○		○

2023年度 カリキュラム・マップ【城西短期大学ビジネス総合学科】

ディプロマ・ポリシー DP1: 前に踏み出す力 DP2: 考える力 DP3: 協力する力 DP4: 職業人として活躍できる幅広い教養 DP5: ビジネススキル
--

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー				
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
関連科目	文化論Ⅰ	〈目的〉 アジア諸国の文化について、基本的な多様性や価値観や信念の違いを理解する。 〈到達目標〉 アジア諸国の文化的背景を理解することで、国際社会で柔軟に活躍出来る人材を目指す。	〈評価方法・割合〉 学則に従い、欠席回数が3回に達した履修者（大学の指示により、オンライン授業となった場合；未提出課題1/3以上の履修者）は、評価の対象になりません。100点満点で60点以上が合格 ・授業貢献度、授業態度、質疑への積極性：20% ・ペアワーク発表：2回×30%：60% ・期末テスト：20%	○		◎		
関連科目	ジェンダー論Ⅰ	〈目的〉 ・ジェンダー研究の視点から社会のさまざまな問題を分析し、問題解決策を探ることができる ・女性／男性という存在が多様な存在であると理解できる ・女性の人権を尊重する姿勢が、男女を問わず自らに関係する問題として認識することができる 〈到達目標〉 本学が定める以下のディプロマ・ポリシーに掲げられた能力の獲得に必要な差異や多様性の尊重に関する認識を深め、理解を向上させることを目標にします。 この授業では特に、次のことを目標にします。 ・性別に起因する諸問題を理解し、解決しようとする力 ・一人ひとりが大切にされる社会の実現に向けた自らの役割を高める態度を身につけることができる つまり、社会の多様性に配慮して主体的、共同的に社会に貢献できる能力を身につけることができることがこの授業の到達目標です。	〈評価方法〉 授業貢献度50%、試験50% 〈評価基準〉 授業貢献度には、授業態度、質疑への積極性、グループディスカッションなどでの積極性、課題など主体的な取り組みが含まれます。 試験には、定期試験またはレポートおよび提出物が含まれます。 ※ 学則に従って100点満点で60点以上が合格	◎	○	△	○	
関連科目	ジェンダー論Ⅱ	〈目的〉 ジェンダーの視点から日本の「このとりのゆりかご」について考察することにより、社会的な問題に直面したときに、自分自身で解決する手掛かりをもてるようになることをめざします。そこからみえてくるこれからの日本の家族の形やライフコース、ジェンダー平等の在り方、そして今後必要とされる社会的制度について、ともに考えていきましょう。 〈到達目標〉 これからの日本社会におけるジェンダー平等のあり方について自分の意見が主張できることをめざします。実際に、自分が調査した内容をプレゼンテーションして、仲間とディスカッションすることによって、準備の手法、自己表現力やコミュニケーション能力を高めます。	〈評価方法・割合〉 期末レポートが50% プレゼンテーションやコメント発表などの授業貢献度が50%。 〈評価基準〉 自分のプレゼンテーションのための準備のプロセス（提出期限を守った小レポートの提出など）と授業内におけるプレゼンテーションの内容および態度を評価します。また、他の学生のプレゼンテーションの内容に対するコメント等も授業への参加態度として評価します。 期末レポートの詳細については、「期末レポートの課題」として具体的な採点基準を提示します。	○	◎	△	○	
関連科目	現代社会と法Ⅰ	-	-	-	-	-	-	-
関連科目	現代社会と法Ⅱ	-	-	-	-	-	-	-
関連科目	数学入門Ⅰ	-	-	-	-	-	-	-
関連科目	文化論Ⅱ	-	-	-	-	-	-	-
関連科目	異文化コミュニケーション	-	-	-	-	-	-	-

2023年度 カリキュラム・マップ【城西短期大学ビジネス総合学科】

ディプロマ・ポリシー DP1: 前に踏み出す力 DP2: 考える力 DP3: 協力を力 DP4: 職業人として活躍できる幅広い教養 DP5: ビジネススキル				
---	--	--	--	--

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー				
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
基本科目 (留学生対象科目)	日本語Ⅰ A	〈目的〉 基礎から文法をもう一度見直し、様々な事柄について正しい表現を身に付けることで、応用力を高めることを目的としています。	〈評価方法・割合〉 試験:50% 授業参加度(課題提出等):50%	○	◎		△	△
基本科目 (留学生対象科目)	日本語Ⅰ B	〈到達目標〉 この授業では、城西短期大学ディプロマポリシーの「社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や道徳的能力」を修得することを目標としています。		○	◎		△	△
基本科目 (留学生対象科目)	日本語Ⅱ A	〈目的〉 大学生らしいことばや表現を使い、自分の意見や主張を文章化し、口頭で正しく表現できるようになることを目的とします。 〈到達目標〉 作文および口頭発表に慣れ、最終的に400字以上で自分の意見や主張を論理的に表現できるようになることを目標としています。	〈評価方法〉 評価方法・課題(作文)提出:50% 口頭発表:50%	◎	○		△	△
基本科目 (留学生対象科目)	日本語Ⅱ B	〈目的〉 大学生らしいことばや表現を使い、自分の意見や主張を文章化し、口頭で正しく表現できるようになることを目的とします。 〈到達目標〉 小論文および口頭発表に慣れ、最終的に800字程度で自分の意見や主張を論理的に表現できるようになることを目標としています。		◎	○		△	△
専門科目 (留学生対象科目)	日本語Ⅲ	〈目的〉 様々な有名企業についての文章を読み、必要な語彙や表現を学ぶ。 〈到達目標〉 有名企業についての文章を読むことによって、必要な語彙や表現を学び、内容をしっかりと理解することを到達目標とする。(社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や道徳的能力)	〈評価方法〉 平常点(課題への取り組み等)およびまとめのテスト 〈割合〉 平常点:50%(課題への取り組み等) まとめのテスト:50%					○
専門科目 (留学生対象科目)	日本語Ⅳ	有名企業についての文章を読むことによって、必要な語彙や表現を学び、内容をしっかりと理解することを到達目標とする。(社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や道徳的能力)	〈評価基準〉 全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。		◎			○

2023年度 カリキュラム・マップ【城西短期大学ビジネス総合学科】

ディプロマ・ポリシー									
DP1: 前に踏み出す力 DP2: 考える力 DP3: 協力を力 DP4: 職業人として活躍できる幅広い教養 DP5: ビジネススキル									
分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー					
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
専門科目 (留学生対象 科目)	日本語V	〈目的〉 様々な有名企業についての文章を読み、内容を理解し、自分の意見をまとめ、表現する練習をする。 〈到達目標〉 有名企業についての文章を読むことによって、必要な知識を学び、自分の意見がきちんと言えるようになることを到達目標とする。(社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や道徳的能力)	〈評価方法〉 平常点(課題への取り組み等)およびまとめのテスト 〈割合〉 平常点:50%(課題への取り組み等) まとめ:50%		◎				○
専門科目 (留学生対象 科目)	日本語VI	〈目的〉 日本で働くために必要な知識や日本語・マナーを学ぶ。 〈到達目標〉 有名企業についての文章を読むことによって、必要な知識を学び、自分の意見がきちんと言えるようになることを到達目標とする。(社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や道徳的能力)	〈評価基準〉 全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。 課題・まとめのテストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。		◎				○
専門科目 (留学生対象 科目)	日本語VII	〈目的〉 日本で働くために必要な知識や日本語・マナーを学ぶ。 〈到達目標〉 日本で働くために必要な準備として、ビジネス場面で必要な知識やビジネス日本語を学び、使えるようになることを到達目標とする。(社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や道徳的能力)	〈評価方法〉 平常点(課題への取り組み等)および小テスト 〈割合〉 平常点:50%(課題への取り組み等) 小テスト:50%		○		◎		○
専門科目 (留学生対象 科目)	日本語VIII	〈目的〉 日本について理解を深め、自国との比較を行うことができる知識や考え方を身に付けるようにしたい。 〈到達目標〉 社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力が身につく。	〈評価基準〉 全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。 課題や小テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。		○		◎		○
関連科目 (留学生対象 科目)	日本事情I	〈目的〉 日本について理解を深め、自国との比較を行うことができる知識や考え方を身に付けるようにしたい。 〈到達目標〉 社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力が身につく。	〈評価方法・割合〉 授業態度:50% 授業中のテストおよびレポート:50%	△	◎	○			
関連科目 (留学生対象 科目)	日本事情II	〈目的〉 日本について理解を深め、自国との比較を行うことができる知識や考え方を身に付けるようにしたい。 〈到達目標〉 社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力が身につく。	〈評価基準〉 日本語表現の妥当性	△	◎	○			